

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術論特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7202
2. 授業担当教員	田中 喜美子		
4. 授業形態	講義、討論、事例研究、グループワーク	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉援助技術の歴史的展開に即しながら、その理論動向を十分に把握しつつ、近年の動きであるシステム論、エコロジー論、エンパワメント論、ソーシャルサポートネットワーク論等について講述すると共に、臨床社会福祉研究についての研究法を演習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉専門職の特質を世界的視野から分析を試みる。 2) 日本と米国の社会福祉専門職の特質の比較分析・検証を行う。(米国以外でもよい) 3) 主要援助技術(精神分析論、交流分析論)の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する。 4) 主要援助技術(認知理論、行動理論)論の発生源、及び歴史的発展の理解をする。 5) 主要援助技術(システム論、エコロジー論)の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する。 6) 主要援助技術(エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論)と組織(機関・施設)との関係を理解する。 7) Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の特徴と概論、これからの援助技術の発展の方向性と必要性を探索する。 8) 上記3)から7)までの社会福祉援助技術論を理論と実践の特性に合わせてケースワーク、グループワーク、コミュニティワークと繋いで実践する方法について学習する。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 春学期、秋学期ともに2回クラスで発表を行い、討論をすすめる。 2) 査読付専門誌に掲載できるレベルの論文を1年に1本ずつ書くように努める。 3) 研究分野をしぼり、文部科学省科学研究費の申請書を準備し、実際に申請する。(締切り日: 11月2週目の授業日) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】レジュメ+資料</p> <p>【参考文献】</p> <p>平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子『社会福祉実践の新潮流：エコロジカル・システム・アプローチ』ミネルヴァ書房、1998</p> <p>平山尚、武田丈『人間行動と社会環境：社会福祉実践の基礎科学』ミネルヴァ書房、2000</p> <p>西阪 仰・早野 薫・須永 将史・黒嶋 智美・岩田 夏穂 (2013)『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』、勁草書房</p> <p>Gair, S. (2012). Feeling their stories: Contemplating empathy, insider/outsider positionings, and enriching qualitative research. <i>Qualitative health research</i>, 22(1), 134-143.</p> <p>Särkelä, E., & J. Suoranta (2020). The method of empathy-based stories as a tool for research and teaching. <i>The Qualitative Report</i>, 25(2): 399-415.</p> <p>Ainsworth, F. and Hansen, P. (2005). Evidence Based Social Work Practice: A Reachable Goal? In A. Bilson (ed.), <i>Evidence-Based Practice in Social Work</i>, London, Whiting and Birch.</p> <p>Charon, R. (2001). Narrative Medicine: A Model for Empathy, Reflection, Profession, and Trust. <i>JAMA</i>, 286(15), pp.1897-1902.</p> <p>Hall, J.C. (2016). Narrative Therapy. <i>Encyclopedia of Social Work</i>. NASW Press & Oxford University Press.</p> <p>Fook, J. (2002). <i>Social Work: Critical Theory and Practice</i>, London: Sage Publications.</p> <p>Howe, D. (1994). Modernity, Postmodernity and Social Work. <i>British Journal of Social Work</i>, 24(5), pp. 513-532.</p> <p>Roche, S. E. (2007) 'Postmodern Call and Response: Social Work Education in the Modernist University', in S. L. Witkin and D. Saleebey (eds.), <i>Social Work Dialogues: Transforming the Canon in Inquiry, Practice and Education</i>, Alexandria, CSWE Press.</p> <p>Saleebey, D. (1996). The Strengths Perspective in Social Work Practice: Extensions and Cautions. <i>Social Work</i>, 41(3), pp. 296-305.</p> <p>Mo Yee Lee. (2013). Solution-Focused Brief Therapy. <i>Encyclopedia of Social Work</i>. NASW Press & Oxford University Press.</p> <p>洪金子他『社会福祉援助論』ナヌム家、2011</p> <p>洪金子他『社会福祉援助技術論』同仁出版社、2006</p> <p>洪金子他『人間の行動と社会環境』高憲出版社、2000</p> <p>Sheafor, B. W., Horejsi, C. R., & Horejsi, G. A. (2003). <i>Techniques and Guidelines for Social Work Practice</i>. New York: Allyn & Bacon.</p> <p>Albert R. Roberts, Gilbert J. Greene(eds.), <i>Social Workers' Desk Reference</i>, Oxford University Press, 2002.</p> <p>Marlene E. Turner (Ed.)<i>Groups at Work, Theory and Research</i>, Lawrence Erlbaum Associates,1999.</p> <p>R.L. Edwards (Ed. in-chief), <i>Encyclopedia of Social Work</i>, (19th ed.), NASW, 1995.</p> <p>主な英文社会福祉専門誌</p> <p>Administration in Social Work、British Journal of Social Work、Child Welfare、Community Development Journal、Health & Social Work、Journal of Community Practice、Journal of Social Work Education、Journal of Sociology and Social Work、Public Administration Review、Small Group</p>		

	Research, Social Service Review, Social Work with Groups, Journal of Social Service Research, Social Work, Social Work Research その他必要に応じて示唆をする。
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 授業中での発表やディスカッションへの参加 講義とワークや実践への参加と自己評価 ○評定の方法 クラスでの発表 30% 論文 70%
12. 受講生へのメッセージ	○ 大学院学則を遵守すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。 ○ 社会福祉援助技術実践者としての自分に合う社会福祉援助技術理論を確保すること。
13. オフィスアワー	別途連絡する
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1～2. テーマ	社会福祉専門職の特質を世界的視野から分析を試みる 日本と米国の社会福祉専門職の特質の比較分析・検証を行う（米国以外でもよい）
【学習の目標】	1. 社会福祉の専門性と社会福祉士の専門職者としてのアイデンティティを確認する 2. 日本と米国など外国の社会福祉専門職の特質を比較する
【学習の内容】	1. 社会福祉の専門性と社会福祉士の専門職者としてのアイデンティティを高める 2. 各国の社会福祉の共通性と相違性について把握する
【キーワード】	専門性、アイデンティティ、各国の社会福祉の比較
【学習と研究の課題】	日本と米国など外国の社会福祉が社会的環境と時代的背景によってその発展過程と特質が異なることが分かる
3～4. テーマ	精神分析論、交流分析論の理論・技術構成（前提、主要概念等）を理解する
【学習の目標】	精神分析論、交流分析論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる
【学習の内容】	1. 精神分析論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する （人間の精神の構成、性格の構造、性格の発達段階、不安、防御規制、転移の分析） 2. 交流分析論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する （自我の構造、交流とその週類、ストローク、人生態度と人生脚本、時間の構造化）
【キーワード】	Id・Ego・Super-Ego、子ども・成人・親の自我状態
【学習と研究の課題】	医療モデルとしての長所と短所をはっきり見極めて、社会福祉実践に有効に生かせるようにすること
5～6. テーマ	精神分析論の実践技術とケースへの適用・事例分析
【学習の目標】	1. 精神分析論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 精神分析論に基づいた事例分析ができる
【学習の内容】	学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。
7～8. テーマ	交流分析論の実践技術とケースへの適用・事例分析
【学習の目標】	1. 交流分析論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 交流分析論に基づいた事例分析ができる
【学習の内容】	学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。
9～10. テーマ	認知理論、行動理論(認知行動論)の発生源、及び歴史的発展の理解をする
【学習の目標】	認知理論、行動理論(認知行動論)の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる
【学習の内容】	1. 認知理論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する （Banduraの自己効力感、Beckの認知論、RET） 2. 行動理論(認知行動論)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する （社会学習理論、条件反射、刺激-反応、操作的条件化、強化 Reinforcement、消去、統制、報酬 Reward と懲罰 Punishment、トークンエコノミー-Token Economy、系統的脱感）
【キーワード】	認知の再構成、自己主張訓練、社会技術訓練、改題の割り当て、漸進的弛緩法、系統的脱感作法、嫌悪技法
【学習と研究の課題】	認知的行動療法を受けたクライアントの方が、そうでないクライアントより楽に過ごして効果的であるという統計的結果は多い。ところが、他の心理療法(特に、長期的精神力学療法)の介入効果が臨床的にほとんど研究されてないためであるということを感じる。
11～12. テーマ	認知理論の実践技術とケースへの適用・事例分析
【学習の目標】	1. 認知理論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 認知理論に基づいた事例分析ができる
【学習の内容】	学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。
13～14. テーマ	行動理論の実践技術とケースへの適用・事例分析
【学習の目標】	1. 行動理論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 行動理論に基づいた事例分析ができる
【学習の内容】	学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。
15～16. テーマ	システム論、エコロジー論(生態システム論)の理論・技術構成（前提、主要概念等）を理解する
【学習の目標】	システム論、エコロジー論(生態システム論)の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる
【学習の内容】	システム論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する （社会システム理論、統合的理論を提唱したA. ピンカスとA. ミナハン（1973）の「ソーシャルワーク実

	<p>践における四つの基本システム」、PIE(Person-In-Environment)、エコロジー論(生態システム論)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(T. パーソンの生態理論、ギターマンとかジャマインの生活モデル、)</p> <p>【キーワード】システムの構造・機能・行動、境界、開放と閉鎖的システム、Synergy、Input-Output-Through Put など、人間の環境の適応(望ましい・最小限に相当・不相当の3段階)、生活ストレス、ストレス、適応・対処能力、自己能力、自尊心、自発性など</p> <p>【学習と研究の課題】単線的・循環的因果関係の在り方とその代表理論そして、実践への適用における長所と短所が比較できる。人間と環境(物理的・社会的環境)との交互作用に関する観点を保つこと。アセスメントの技法として Genogram と Eco-Map が自由に活用できる</p>
17～18.テーマ	システム論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】1. システム論の実践技術とケースへの適用ができる 2. システム論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく</p>
19～20.テーマ	エコロジー論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】1. エコロジー論の実践技術とケースへの適用ができる 2. エコロジー論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく</p>
21～22.テーマ	エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論と組織(機関・施設)との関係を理解する
	<p>【学習の目標】エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】1. エンパワメント論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(Solomon, Gutierrez の Empowerment, Stigma, ストレngthモデル、パートナーシップ、資源の開発と活用) 2. ソーシャル・サポート・ネットワーク論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(ウィタカー(Whittaker, J.K.) とガルバリーノ(Garbarino, J.) のソーシャル・サポート・ネットワーク、ソーシャル・サポート(社会生活上の支援)とソーシャル・ネットワーク(社会関係)、「支え(nurturance)」パターンの促進、支援の提供、相互的な関係)</p> <p>【キーワード】自己効能感、集団意識、We-ness と共感の形成、クライアントを自分の問題解決の主体者として認識する、変化に対する自己の責任意識自然発生的サポートシステム、セルフヘルプグループのようなサポートシステム、社会制度によるサポートシステム、個人ネットワーク法、ボランティア連結法、相互援助ネットワーク法、近隣地区援助者法、地域活性化法、ネットワーク介入、ケースマネジメント、システム開発</p> <p>【学習と研究の課題】エンパワメント論のソーシャルワーカーの役割について明確にする(クライアントの問題解決を支援する同僚、協力者でありながら、行政機関、裁判所などの高圧的社会制度の否定的影響力を減少させるためクライアントのために活動する)</p>
23～24.テーマ	エンパワメント論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】1. エンパワメント論の実践技術とケースへの適用ができる 2. エンパワメント論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく</p>
25～26.テーマ	ソーシャル・サポート・ネットワーク論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】1. ソーシャル・サポート・ネットワーク論の実践技術とケースへの適用ができる 2. ソーシャル・サポート・ネットワーク論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく</p>
27～28.テーマ	Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の特徴と概論、これからの援助技術の発展の方向性と必要性を探索する
	<p>【学習の目標】Post-Modern 社会福祉援助論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(社会的構成主義、ナラティブ・セラピー、Inner state、Strength Model)</p> <p>【キーワード】ディスコース アナリシス、支配的(dominant) ディスコースと周辺のディスコース、貧弱なストーリーと豊富なストーリー、内在化と外在化、リフレクティング・チーム(Outsider Witness Group) 再著述(Re-authoring)、Strength and Weakness</p> <p>【学習と研究の課題】周辺にやられたクライアントの貧弱なストーリーをより豊か(Thicker, Richer)に変える援助技術を身に付ける</p>
29～30.テーマ	Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の実践技術とケースへの適用ができる</p> <p>【学習の内容】学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく</p>